

お知らせ

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで患者症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
検討ご希望の症例がございましたら是非ご持参下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

研修会のご案内

日程	テーマ	講師
5月26日(木)	こんなときは膠原病?	膠原病内科部長 定永 敦司 薬剤課主査 山田 真裕
6月23日(木)	消化器癌(食道・胃・大腸)に対する内視鏡治療	消化器内科副部長 江崎 充
7月28日(木)	チーム医療で支える乳癌診療 手術療法を受ける患者の看護 よりよい画像検査提供のために	乳癌看護認定看護師 安藤 育枝 放射線技術課主任 村上 典子 臨床検査技術課 衣非 南美
9月29日(木)	C型肝炎治療の現状 C型肝炎ウイルス治療における 薬剤課の取り組み	内科部長 河野 聡 薬剤課 和田 佳菜子

▶ 場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂
▶ 時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度)

【問合せ先】
北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



第61号 ● 平成28年4月28日発行 発行人：北九州市立医療センター 〒802-0077 北九州市小倉北区馬場2丁目1-1 TEL.093-541-1831 FAX.093-533-8693
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/



KMMC

Kitakyushu Municipal Medical Center

2016 April news

輪

北九州市立医療センターニュース

第61号



＜本院の基本理念＞
わたくしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を
提供します



INDEX	
新年度のごあいさつ	1
就任・退任のごあいさつ	2
新主任部長紹介・新旧薬剤課長紹介ごあいさつ	4
新任医師紹介	5
医療の進歩・子宮頸がんの小線源治療 二次元から三次元へ	7
看護の広場・6階南病棟	8
登録医のご紹介	9
医療連携室だより	10
お知らせ・症例検討会のご案内 等	



院長挨拶



新年度を迎えて

北九州市立医療センター院長
豊島 里志

3月で一つ区切りをつけて、それでも何となく心がざわざわした思いを残して、4月の声を聞くとそこでは新しい年度の新しい組織が動き出します。市立医療センターでも3月で50人余りの人々が新しい場所を求めて去り、4月から新しく50人を超える人々がこの組織の構成員として加わります。新しい陣容で、新しい息吹を加えて市立医療センターは新しい年度を歩き始めます。

2月の市立病院あり方検討会議で、市立病院の経営形態について意見が集約され、これを受けて3月の市議会で北橋健治市長が独立行政法人化を

目指すことを表明しました。この方針を軸に北九州市では公立病院改革プランを策定することになります。あり方検討会議でも今年度はほぼ一年かけて市立病院の担うべき役割が整理されます。病院が意欲を持ち得意とする領域と、地域がその病院に求める役割とを考えながら、この北九州医療圏の中で市立病院が果たすべき適切な機能を設定し整備していきます。

今年度具体的には外来診療室の一部改編を行い、特に消化器疾患の診療の効率化を目指し、医療連携については連携室と入退院センターの機能を組み合わせて、地域の医療機関との連携の一層の充実に努めていきます。これらを通して地域医療提供体制の充実に寄与していこうと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



名誉院長・参事挨拶



医療による 地方創世への道

北九州市立医療センター名誉院長・参事
光山 昌珠

2013年(平成25年)4月より名誉院長として、乳腺・甲状腺疾患の外来と、時に手術をさせていただいている昨今である。国内外の学会にも積極的に参加・研鑽しまた、県の乳がん検診部会、市のマンモグラフィ専門部会の委員長として乳がん医療の発展、撲滅のため日々努力している。当院の乳がん手術例数が2015年400例を超え、県1位の症例数となった。しかし市の人口は1.5万人減少し、減少数が最多で不名誉な結果となった。市もいろいろなイベントや小児の医療費助成、シニア移住などを企画し、人口減少に歯止めをかけるべく努力を重ねているが、医療従事者としても軽視できない。何ができるかを医療の立場から早急に考えなければ

ならないが、市立病院としての経営形態でできることは限られてくる。安全・安心の納得・満足する医療と高度な先進的な医療を提供して行く以外に打開策はない。そのためにも院長時代より提唱していた独立行政法人化が有識者会議で決定されたことは喜ばしい。

独法化後の質の高い高度な医療に向けての整備に必要な優秀な人材を医師はもちろん、メディカルスタッフ、事務職等も十分に確保し、医療従事者のモチベーションを高める。そして県内のみならず、国内でもトップレベルの症例数のみならず、質・満足度の高い高度な医療を提供することによる医療分野での活性化が他の産業にも波及し、雇用が促進され若い世代の定住者の増加が期待できる。そして中期的な北九州市の医療の在り方に関して、医療者のみならず、市民と産業分野を含めた他職種が一堂に会し、議論する市民参加型の市民フォーラムなどの開催も地方創生には不可欠であり、北九州市をこよなく愛する市民の一人として強く提唱したい。



総括副院長就任挨拶

総括副院長就任にあたって

総括副院長
小野 稔

この度、有馬透先生の後任として総括副院長を拝命いたしました放射線科の小野稔です。

平成20年に副院長を拝命し、医療情報管理室長、診療材料管理選定委員会委員長、医療連携室長、診療支援部部長等を担当してまいりました。とりわけ医療連携室長としてのこの2年間は、日頃入院患者さんと関わりの少ない放射線科診断医の私にとりまして、新鮮な毎日で貴重な体験となりました。大過なく後任外科中野副院長に引き継ぎができますのも、一重に小倉医師会監事として地域医療

機関の諸問題を勉強させていただいた経験と、当院の優秀な連携室スタッフのサポートのお蔭と深く感謝申し上げます。当院の連携室に対し、今後とも益々のご支援と、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

今年度は、医療安全管理室長、医療機器安全管理が私の新たな所掌業務となります。私自身一からのスタートで、その責務の重さに身の引き締まる思いです。医療安全は院内職員全員の細部に渡る情報共有と、安全対策に対する高い認識が第一歩と考えています。そして、市民、地域医療機関の皆様、常に安全安心な医療を提供できるような体制作りに努めてまいる所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



総括副院長退任挨拶

お世話になりました

前総括副院長
有馬 透

1995年4月、当時標榜科としての小児外科がなかった北九州市で小児外科を立ち上げるため研修医と二人で着任いたしました。以来、地域の医療機関の皆さまには大変お世話になってまいりました。「立ち上げる」と言うの偉そうですが、未完成品のまま着任した私を地域の先生方、とくに小児科・産科の先生方によって育てていただいたことに深く感謝申し上げます。今では市内4施設で本格的な小児外科診療が行われ、この地でも小児外科が定着した感があります。

2004年からは管理職の末席に名を連ね、そのうち医師会

活動にも参加させていただき、小児外科関係とは別の意味でも地域にお世話になってまいりました。当院はいろいろとご批判を受けながらも、地域社会でそれなりの存在価値を持つようになってきていると思います。世の中の大抵の事柄と同様に医療界も常に「今が大変な時期だ、変革のときだ」と言われてきましたが、北九州市立病院はようやく独法化への流れが見え始め、本当に変革のときを目前にしていますので、私もOBとして当院が生まれ変わった姿を見届けたいと願っています。皆さまにも地域医療の仲間としての当院を温かい眼で見守っていただきますようお願い申しあげて退任のごあいさつとさせていただきます。

21年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



副院長就任挨拶

副院長就任にあたって

副院長
永島 明

4月1日付けで副院長に任命されました。当院が「市立小倉病院」から「市立医療センター」と改称された翌年の平成4年に呼吸器外科医として赴任し、早いもので24年が過ぎました。この間に医療を取り巻く環境は大きく変わり、当院も「最高最良の医療」を目指し、ハード面、ソフト面ともに常にバージョンアップしてまいりました。今後も医療環境の変化は激しいものが予想され、公立病院として新公立病院改革プランの策定が求められています。地域包括ケアシステム構

築に向けて果たすべき役割、地域医療構想を踏まえた役割の明確化、経営の効率化、経営形態の見直しで多岐にわたります。地域の診療所や病院との連携、役割分担も今まで以上に必要になっていくものと思われます。正直難しいことはよくわかりません。ただ当院が地域の患者さん、地域の診療所や病院の先生方に「愛される」病院であること、働く職員にとっても働きやすい、誇りに思える職場であることが何より大事であろうと思います。このために微力ながらお手伝いしたいと思います。なにとぞよろしくお願いいたします。

なお呼吸器外科医としても引き続き診療を続けてまいります。こちらも従来通りよろしくお願いいたします。



| 統 | 括 | 部 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

統括部長就任にあたって

統括部長
浦部 由利

このたび統括部長を拝命いたしました。市立医療センターに1995年4月に赴任し21年目となります。以来循環器内科の診療を担当してまいりました。2001年に心臓血管外科の新設があり、医療センターの三本の柱の一つである生活習慣病の代表的な疾患である心臓血管病の治療に、心臓血管外科の医師と協力し邁進してまいりました。2001年以来心臓血管外科の医師と協力し、循環器系の当直を行っております。循環器疾患の特徴からか、もとより他科からの

受診依頼も多く、いろんな病棟に出入りしていますので、顔見知りの病院スタッフの方々が多いことは、これからいろんなことを協力して行うときに幸いだと思っております。今後は病院全体として市民からの、そして地域の医院・病院の先生方の信頼を維持し、さらに高いレベルを目指せるよう努力してまいりたいと存じます。循環器内科主任部長も引き続き併任しますのでよろしくお願いいたします。



| 看 | 護 | 部 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

看護部長に就任して

看護部長
山本 智美

3月末で退職された、黒木看護部長の後を引き継ぐことになりました。よろしくお願いいたします。看護学校・八幡病院を経て、5年ぶりに医療センターに戻ってまいりました。

5年という時が経過し、院内の様子もずいぶん様変わりしています。頭を切り替えて、一日も早く看護部長としての役割を果たせるよう努力してまいります。

看護部では、5月に予定されている病棟診療科の再編成に向け、看護師長はじめ職員間のローテーションを大胆に行い、顔ぶれもずいぶん変わっています。新しい部署で落ち

着くまでには少し時間はかかりますが、新たな学びの機会として捉え、前向きに進み、それぞれが新しい風を吹かすことができればと考えています。

医療・看護を取り巻く環境が急速に変化していく中で、時代の流れを迅速にキャッチし、看護部の運営に反映させていくこと、そしてどのような状況にあっても「患者さんの安全を護り満足していただける看護の提供」を目指し努力していく所存です。関係医療機関の皆さまのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



| 看 | 護 | 部 | 長 | 退 | 任 | 挨 | 拶 |

退職にあたり

前看護部長
黒木 姓子

2014年4月に看護部長に就任し、この度3月末にて退職することになりました。

看護部長としては2年間でしたが、医療連携室での勤務を含め、地域の皆様にはいろいろとご指導をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。振り返ってみますと若松病院を譲渡後、医療センター連携室勤務となり、地域医療支援病院として承認を受け、医療連携強化が図られ、医療連携、退院支援に取り組んできました。また、看護部長としての2年間は、看護組織体

制の改正が行われ、看護科から看護部となり、看護部組織刷新からのスタートとなりました。皆様に支えていただきながら、急性期病院として7対1看護基準の維持に向け、リリーフ体制、職務継続のためのサポートや、職員の教育の充実、やりがいを感じ生き生きと働ける職場環境づくりに取り組んできました。今後は、医療を取り巻く環境は厳しくなりますが、地域の医療機関との連携を図り、看護部職員の一人ひとりが専門職としての自覚と役割を果たしてくれることを願っています。ありがとうございました。

新

主任部長・薬剤課長

紹介

この4月、人事異動に伴って新主任部長・薬剤課長からご挨拶申し上げます。



糖尿病内科
主任部長
佐藤 直市

4月1日付けで糖尿病内科主任部長を拝命しました佐藤直市と申します。北九州市立医療センターは石津汪先生の時から他の病院に先駆けて糖尿病センターとして地域医療の中で糖尿病治療を担ってきた伝統ある病院であり、その責任の重さを感じています。

糖尿病治療は近年医学の進歩もあり、飛躍的に進歩していますが、患者さんの個々の病態や治療のリスク、病識、治療意欲、社会的環境などを総合的に判断し、医療従事者は患者さんと治療方針を決めていく姿勢は、患者中心医療としてますます重要となっています。こうした中、医師のみでなくスタッフを含めたチーム医療を積極的に推進し、北九州市の生活習慣病予防、医療、福祉、医療連携に貢献したいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



緩和ケア内科
主任部長
大場 秀夫

このたび4月1日付で、緩和ケア内科主任部長を拝命いたしました大場です。日頃院内はもとより院外の先生方からも多くの患者さんの紹介をいただいております。この場を借りてお礼申し上げます。

当院の緩和ケア病棟は、2001年に開設され15年が経過しました。2002年にWHOが緩和ケアの定義を発表していますが、それによると生命を脅かす疾患に起因した諸問題に直面している患者さんとご家族のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を改善するアプローチであるとされています。また、痛みその他の身体的、心理・社会的、スピリチュアルな諸問題の早期かつ確実な診断、早期治療と対応によって苦痛の予防と苦痛からの解放を実現するとあります。人口の高齢化とがんの有病率の上昇に伴って緩和ケアに期待される役割は大きいだろうと思われます。

今後は紹介医の先生方、さらには看護、介護など幅広い医療機関の方々と連携しながら地域の緩和ケアの推進に努力していきたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



薬剤課長
坂本 佳子

4月より診療支援部薬剤課長を拝命いたしました坂本です。

門司病院、八幡病院に15年ずつ勤務しておりました。初めての医療センター勤務で、勤務数日にして早くも薬剤課長としての責任の重さをひしひしと感じております。

薬剤課では、入院患者さんの薬学的管理、地域がん診療連携拠点病院としての化学療法への関与を行い、調剤監査システムを導入して、業務の基幹としての調剤の安全性をさらに高めています。

諸先輩方の思いを引き継ぎ、薬剤課全員で、医薬品に依る診療支援、医療の安全を確保していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



| 薬 | 剤 | 課 | 長 | 退 | 任 | 挨 | 拶 |

定年退職にあたり

前薬剤課長
橋口 靖

2014年4月に薬剤課長に就任し、この度、3月末で定年退職を迎えることになりました。

就任中の2年間、病院内外の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

薬剤課長就任中は、調剤室移動による課内の整備、新規導入の注射薬自動払出装置稼動による医療安全対策等、また病院収入増を目標に後発医薬品切替にも積極的に取り組みました。特にスマートデバイス（バーコード識別調剤監

査システム）の導入は医療安全対策に多大な効果を示しました。さらに、2016年度は全自動錠剤分包機が稼動し、病棟での安全な配薬等、病院全体への効果も期待できます。今後は、勤務医等の負担軽減および薬物療法の有効性、安全性の向上のために、早急に病棟薬剤業務ならびに薬剤管理指導業務の完全実施が望まれます。

最後に大過なく勤務でき、重ねて感謝の気持ちで一杯です。多くの方々に支えられ温かいご指導とご協力のおかげだと深く感謝しています。

新任医師紹介

Question [質問内容] Q1.所属診療科 Q2.得意分野 Q3.自己PR

Profile / 01 Aya Sugano

菅野 綾

- A1.** 消化器内科
A2. 消化器内視鏡
A3. まだまだ未熟者ですが、日々精進していきたいと思います。よろしくお願いいたします。



Profile / 05 Takafumi Okayama

岡山 卓史

- A1.** 外科
A2. 消化器外科一般
A3. この度下関市立市民病院より外科に赴任してまいりました岡山と申します。外科医として地域の皆様のお役に立てるように精一杯頑張っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



Profile / 09 Atsuko Omori

大森 淳子

- A1.** 小児外科
A2. 小児外科一般
A3. 4月から当院へ赴任いたしました。地元北九州の小児医療に貢献できるよう、日々勉強しながら頑張ります。



Profile / 13 Tomonobu Uozumi

魚住 友信

- A1.** 産婦人科
A2. 産婦人科一般
A3. 4月より赴任いたしました産婦人科の魚住と申します。故郷である北九州で働けることを大変うれしく思います。産婦人科医として皆様のお役に立てるよう、精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



Profile / 02 Taizo Hosokawa

細川 泰三

- A1.** 消化器内科
A2. 消化器内科一般
A3. 4月から飯塚病院より赴任となりました。地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



Profile / 06 Atsushi Fujii

藤井 昌志

- A1.** 外科
A2. 消化器外科一般
A3. 4月より赴任いたしました藤井と申します。地域の皆様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



Profile / 10 Tomoko Maekawa

前川 朋子

- A1.** 皮膚科
A2. 皮膚科一般
A3. 2年ぶりに北九州に帰ってきました。地元の皆さんに貢献できるよう頑張ります。



Profile / 14 Dan Maruta

丸田 弾

- A1.** 耳鼻咽喉科
A2. 耳鼻咽喉科一般
A3. 初めて北九州に赴任いたしました。少しでも地域の皆様のお役に立てるよう努力したいと思います。よろしくお願いいたします。



Profile / 03 Shunichi Kawano

河野 俊一

- A1.** 循環器内科
A2. 心不全、冠動脈インターベンション
A3. 8年ぶりの医療センター勤務となります。まだまだ発展途上ですが、持てる知識と技術の全てを最大限活用し、一人ひとりの患者さんに心の支えになれる医療を提供することに全力で取り組みます。



Profile / 07 Hiroko Ikeuchi

池内 寛子

- A1.** 整形外科
A2. 整形外科一般
A3. 4月より勤務させていただくことになりました。患者さんにとってより良い治療を行えるよう、努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



Profile / 11 Tsubasa Shirouzu

白水 翼

- A1.** 泌尿器科
A2. 泌尿器一般
A3. 努力を怠らずに精進していきますのでよろしくお願いいたします。



Profile / 15 Takaaki Nakashima

中島 孝彰

- A1.** 放射線科
A2. 放射線治療、放射線診断一般
A3. 放射線治療医としての経験はまだ浅いですが、少しでも診療に貢献できるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。



Profile / 04 Masafumi Sada

佐田 政史

- A1.** 外科
A2. 消化器外科一般
A3. 4月より赴任いたしました佐田と申します。皆様のお役にたてるように全力を尽くしていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



Profile / 08 Taro Oba

大場 太郎

- A1.** 呼吸器外科
A2. 呼吸器外科一般、肺がん治療
A3. EBMに基づいた、患者さんごとに最適なテイラーメイド治療を目指したいと思います。まだまだ、修行の身ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



Profile / 12 Emiko Hara

原 枝美子

- A1.** 産婦人科
A2. 周産期
A3. 周産期を中心に、地域の産婦人科医療に貢献できるよう努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



Profile / 16 Yuuko Matsuura

松浦 由布子

- A1.** 放射線科
A2. 画像診断
A3. 4月より赴任しました松浦と申します。地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。





子宮頸がんの小線源治療 二次元から三次元へ

放射線科 部長 野々下 豪

子宮頸がんに対する治療方法として手術療法と放射線治療があります。2011年版の子宮頸がん治療ガイドラインでは、上皮内がん・IA期では手術療法、IBからII期では手術療法と放射線治療、III期以上では放射線治療が推奨されており、子宮頸がんの治療では放射線治療は標準治療の一つとなっています。子宮頸がんの放射線治療は、直線加速器(リニアック)で行う外部照射だけではなく、より線量集中性に優れた小線源治療装置で行う腔内照射を加えた治療が標準治療とされています。外部照射では以前より三次元放射線治療が行なわれていましたが、近年、腔内照射でも二次元小線源治療から三次元画像誘導放射線治療(Three Dimensional Image Guided Brachytherapy: 3D IGBT)へと移行しつつあります。今回当院では小線源治療装置の更新(図1)を行い、腔内照射においても3D IGBTが可能な体制を整え、今後移行予定としております。

ここでは子宮頸がんの放射線治療のうち腔内照射を中心に近年の進歩と当院の取り組みを述べます。



図1：密封小線源治療装置・X線透視装置・診察台

子宮頸がんの放射線治療

子宮頸がんの放射線治療は、はじめに子宮・領域リンパ節を含めた全骨盤への外部照射から開始し、20-30Gy施行したのちに腔内照射を併用していきます。従来はアプリーケーターを子宮・腔に挿入したのちに正面、側面の単純X線写真を撮影し治療計画を行い、治療を施行していました。この場合、単純写真のため腫瘍や正常臓器(直腸・膀胱・結腸・小腸等)の正確な位置の把握は困難となります。ただこのように治療を行った場合であっても、腫瘍や正常臓器への処方線量の指標を用いることにより安全で効果的な治療を行っていました。さらに、外部照射では以前より行わ

ていた三次元放射線治療が、近年、腔内照射においても三次元画像誘導放射線治療(3D IGBT)として行われるようになってきました。3D IGBTの特徴として腔内照射を行う際にはアプリーケーター(図2)を挿入後にCTを撮影し、撮影したCTで治療計画を行います(図3)。CTを用いて計画を行うことにより、腫瘍や直腸・膀胱等の正常臓器の位置が正確に把握できるため、二次元の場合と比較して腫瘍に対してより正確に、また正常臓器への被ばくをより軽減できる治療が可能となります。現在当院では従来の二次元での腔内照射を行っていますが、準備が整い次第3D IGBTへ移行予定としており、鋭意準備を進めております。

北九州市立医療センターでは、がん診療連携拠点病院として子宮頸がんだけではなくその他の悪性疾患に関しても、放射線治療に力を入れて取り組んでいます。放射線治療に関してご不明の点などありましたらご相談ください。また放射線治療の適応がある患者さん、また適応判断に悩まれている患者さんでも構いませんので、ご紹介を今後ともよろしくお願いいたします。



図2：アーチファクト軽減、MRI対応のため非金属製のアプリーケーターを使用

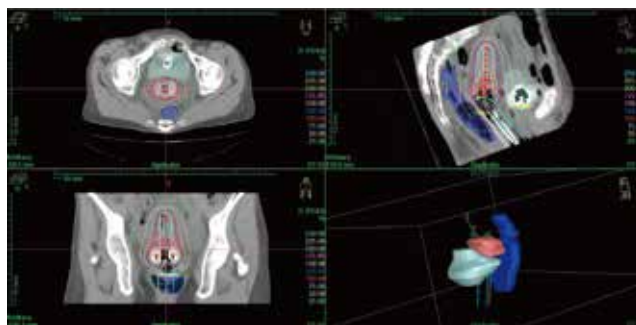


図3：CTで計画を行うため腫瘍・正常臓器を正確に把握することが可能



6階南病棟

6階南病棟看護師長 片島 万里枝

6階南病棟は、整形外科・麻酔科・眼科・腫瘍内科の計51床の混合病棟で総勢26名の看護師で日々看護しております。

整形外科は脊椎脊髄疾患を中心に肩関節疾患や大腿骨頸部骨折などの急性期の外傷、慢性疾患では人工関節が必要な変形性関節疾患が多く、年間約600件以上の手術が行われています。周術期の看護からリハビリ室と連携した入院中の患者さんの病棟リハビリにも力を入れています。

麻酔科は带状疱疹、带状疱疹後神経痛・三叉神経痛などに加え、複合性局所疼痛症候群(CRPS)の患者さんに対し、ブロックや薬物療法を目的とした入院治療を行っています。

眼科は主に白内障手術が行われています。

腫瘍内科は診療科の枠を超えて化学療法によるがん治療を担う診療科で、原発不明がんなどの難治性のがんが主な対象疾患です。

以上4診療科の混合病棟の中でも整形外科の病床数が一番多く、周術期から回復期を通じてリハビリ室とも連携し看護を行っています。日本では65歳以上の高齢者が3,300万人を超え過去最高となり、自立した生活を送っている独

居高齢者が増加してきています。当院での手術も介護者の負担軽減のためやADL向上を目的としての社会的適応から手術加療を選択されることも多くなっています。

しかし、高齢者は加齢に伴う認知機能の低下や慢性疾患が手術を契機に一時的にADLが悪化する患者さんも多く、一人ひとり細やかな看護が欠かせません。

また、一時的にADLが低下することで在宅復帰に向けて医療連携室との連携も欠かせない看護となっています。整形外科の転院依頼件数は年間100件前後と院内でも多く、医療連携室と協力し合いながら、在宅に向けての社会資源の活用や回復期リハビリテーション病床を持つ病院や施設への連携も行っています。入院から在宅までの切れ目のない、「つなげる看護」となるよう、在宅療養の知識を持ち、一人ひとりの患者さんに合わせた医療・看護を提供できるように私たち病棟看護師は、患者さん、ご家族の気持ちに寄り添い、安心して快適な療養環境の提供と思いやりのあるやさしい看護を目指し、スタッフ一同頑張っています。

今後の6階南病棟にご期待ください。



◀整形外科医師と病棟スタッフ



▲腫瘍内科医師と病棟スタッフ



▲麻酔科医師と病棟スタッフ

登 録 医 師 会 紹 介

INFORMATION
所 在 地：門司区港町6-15
電話番号：093-321-2453
F A X：093-332-2151
院 長：末永 五郎
副 院 長：末永 俊郎
診療科目：産婦人科、麻酔科

末永産婦人科・麻酔科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～18:00	○	○	○	×	○	×	×

※午前の受付は12:30まで／午後の受付は17:30まで

アピールポイント

当院は1973(昭和48)年に門司区鳴竹に新規開業し1995(平成7)年に現在の場所に移転いたしました。現在も元気に診療を続けています父親の代から、2012年8月で1万人の赤ちゃんを迎えました。産婦人科専門医として丁寧かつ性格な医療を提供し思春期から更年期以降まで、女性が一生健康でいられるためのお手伝いをするかかりつけ医を目指しております。

市立医療センターへの一言

産婦人科には、異常妊娠や周産期管理、悪性腫瘍等の治療でお世話になっています。特に産科の救急搬送や新生児搬送ではドクターカーで対応してもらっています。北九州市の周産期医療の中核を担っていただき、さらなる発展を期待しています。周産期症例検討会にも参加させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。



院長



副院長

INFORMATION
所 在 地：小倉北区馬借3丁目3-36
電話番号：093-531-7741
F A X：093-531-5139
理 事 長：吉田 ゆかり
院 長：吉田 雄司
診療科目：小児科

医療法人 よしだ小児科医院・病児保育りんご

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
15:30～18:00	○	○	○	○	○	×	×

※第2、第4土曜日は休診 月～金の14:00～15:30は乳幼児健診(予約制)
※病児保育室りんごの開設時間：月～金 8:30～17:30／第1、第3、第5土曜日8:30～12:30

アピールポイント

理事長吉田ゆかりが1990年によしだ小児科を開設。1999年12月より夫婦で共同運営開始、昨年25周年を迎えました。センターより最短距離にある小児科クリニックです。2007年に病児保育室りんごを併設、年間に延べ1,000人を超える病児を預かっています。2人とも新生児医療を経験しているので産科施設退院後早期の新生児も診療可能です。

市立医療センターへの一言

時間外の入院依頼をいつも快く引き受けて下さり感謝しています。小児科医が2人いる利点を生かして、今後小児在宅医療にも取り組むつもりですので、NICUや小児病棟と連携できることを期待しています。センターで生まれた児のペリネイタルビジット、予防接種、乳幼児健診等どうぞご紹介ください。



理事長



院長



医療連携室だより

「重粒子線がん治療の研修会」を開催しました。

2月25日に九州国際重粒子線がん治療センター副センター長 塩山善之先生をお招きしてサガハイマツの現況と展望についてご講演をいただきました。院内からの医師・看護師の参加に加え、地域からも多数の医師・歯科医師・看護師の方に参加いただきました。今後も地域の医療従事者の方に興味をもっていただけるような研修を計画していきたいと思います。研修会の案内は毎月休診のお知らせ等と一緒にご案内させていただきます。多数のご参加をお待ちしています。

地域医療連携推進担当係長 佐藤 美登里



新メンバー紹介

4月より新たに医療連携室長中野徹のもと、地域連携推進担当係長が2名、連携推進主査看護師1名を加えての新体制となりました。

地域連携推進担当係長は、地域の医療機関からの受診や転院の相談を担当させていただく佐藤美登里

と、退院支援・調整を担当させていただく播磨由美です。中野連携室長を中心とし新たなスタッフで、医療連携室、がん相談支援センター一丸となって努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



医療連携室長
中野 徹



地域連携推進担当係長
佐藤 美登里



地域連携推進担当係長
播磨 由美



連携推進主査看護師
岩本 実知野



事務
小島 唯

【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受け付けておりません。

編集
後記

4月14日午後9時過ぎに発生した熊本地震に際して、当院DMATも翌15日未明にはいち早く出発し、震源地の益城町に入り救援活動を行いました。DMATの活動は、現地の医療機関の機能が回復するまで医師会のJMATに引き継がれますが、余震が頻発し、ライフラインの復旧も遅れ、持病の悪化、エコノミークラス症候群など避難所もしくは車中泊避難者の健康が案じられます。医療に従事するものとして現地での活動とともに、今後北九州市に避難してきた方々への必要な医療の提供は、災害時の重要な使命と考えます。(山野)

【表紙写真について】

当院では去る3月、北九州市で地震が発生し、それに伴いNICU病棟から出火したとの想定で防災訓練が行われました。実際に災害が発生したとき冷静に行動するためには、やはり普段の訓練が重要です。皆真剣に取り組んでいました。

広報委員会「輪」編集委員

山野裕二郎 山方伸茂 山本智美 上田幸恵 佐藤美登里
村上典子 天野健司 古賀直樹